

(第3種郵便物認可)

今そして未来

県環境アドバイザーからの提言

▶▶ 10

クリーンエネルギー
と新エネルギーは、一般的にはほとんど同義語として使われている。当然のことながら新エネルギーは、クリーンエネルギーであるからだ。

群馬県のホームページや新エネルギー財団は、新エネルギーを①自然エネルギー(太陽風力、温度差、海洋バイオマス等)②リサイクル型エネルギー(廃棄物焼却熱、下水熱、下水汚泥、し尿工場廃熱等)③従来型エネルギーの新利用形態(コージェネレーション、燃料電池、クリーンエネルギー自動車等)に分類している。

日常レベルで積極導入を

京都会議の中心的議題であった地球温暖化は、環境問題の中で最も重要な問題であり、産業革命以後の経済発展の過程で大量消費された化石燃料によるエネルギーによって引き起こされたものであるといわれている。したがって、地球温暖化防止のためには、従来から使用されてきた化石燃料によるエネルギー



【たぐとみ・まこと】

を見直さなければならぬ。これがクリーンエネルギーの重要性が叫ばれている理由である。

クリーンエネルギー

	2010年目標	2000年度実績
廃棄物発電	552	115
黒液・廃材等熱利用(※)	494	490
太陽熱利用(温水器等)	439	89
風力発電	134	5.9
太陽光発電	118	8.1
バイオマス熱利用	67	—
未利用エネルギー(雪水冷熱等)	58	4.5
バイオマス発電	34	4.7
廃棄物熱利用	14	4.5
合計	1,910	722

(出所: 経済産業省資源エネルギー庁資料) 万k

(※)バイオマスの一つとして整理されているもので、ほとんどが熱利用である。

を直視しなければならぬ。新エネルギー導入目標は別表のとおりで、二〇一〇年度の目標合計は、〇〇年度実績の二・六倍である。一〇年度における全一次エネルギー供給見通しでは、またまた化石燃料や原子力エネルギーに依存しなければならぬ。この目標が達成されず、この目標が達成されたとしても新エネルギーの占める割合は、全体の三〇程度にすぎない。この目標は、政府、自治体、企業、国民が強力に推進していかなければ達成できない。

国民が導入できるクリーンエネルギーは、太陽熱利用(温水器等)、太陽光発電、風力発電、クリーンエネルギー自動車などがある。われわれは今後、家の新築や新車の購入に当たっては、クリーンエネルギーを意識した考え方を積極的に取り入れていくべきで、政府や自治体はクリーンエネルギーを導入しやすい政策をさらに推進すべきである。

(斎藤 雅寿)

